



創 立：1980年(昭和55年)1月10日
会 長：岩田 修司
幹 事：堀 慎治
クラブ広報委員長：湯澤 勇生
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
会 場：ビルドン名古屋

事 務 局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ビルドン名古屋910号
T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：27601nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2014～2015年度
国際ロータリーのテーマ
Light up Rotary
ロータリーに輝きを

2014～2015年度
国際ロータリー第2760地区
ガバナーのテーマ
集まるう・語るう・楽しむう

2014～2014年度
名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ
感謝の気持ちを持って、
ロータリーライフを楽しもう

第1688回例会

～ロータリー識字率向上月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2015年3月12日(木) 晴れ 第35回

司 会：佐治寛行会場委員

ゲ ス ト：(有)根尾開発 技術顧問 浅野明浩さん

中部ケーブルネットワーク株式会社 橋本真由美さん

長谷川隆さん

斉 唱：「我等の生業」

会長挨拶

岩田修司会長

今日は、無人機無人操縦士についてお話をしたいと思います。昨年ですが、アメリカのグーグル社が無人機による配送システム開発の進捗状況を公開したそうでございます。また、米国のAmazonや、ドミノピザも実用化に向けて開発を進めるなど、無人航空機の需要が今話題になっているそうです。



それと共に操縦士の確保が急がれているとの事です。無人機の開発は軍事目的のみならず、商業用途でも活発化して、現在は非軍事用の利用が禁止されているアメリカにおいても、2015年9月までは、民間の無人機が運航開始することが決まっているそうです。欧州でも、同様の動きがあるため、世界的に一気に需要が拡大する見込みだそうでございます。

国際無人機協会のレポートによると、無人機は2015年から今後10年間で、821億ドル(日本円で10兆円近い)経済効果を創出するそうです。米国内ではすでに数十校の大学で無人機に関する専門コースを開設予定であり、アメリカ政府も後押しをしているとのことでございます。

しかし、現在の彼らオペレーターの処遇は、米国空軍の場合、有人機パイロットが1級市民であるのに比べ、無人機のオペレーターのステータスがなかなか高くない状況にあり、士気の維持や人材の確保が課題になっているそうです。今後商業用の無人機が解禁される様になれば、人手不足はさらに深刻になり、10万ドル(日本円で約1200万円)以上の年収を提示する大手企業が早くも出てきており、今後さらなる厚遇が見込まれるとの事だそうです。

ライト兄弟が空を飛びたいという事で飛行機を作った訳ですが、今後は無人機で空からピザや本などが配達されるようになるのも遠い話ではないのでは無いかと思います。

ニコボックス

山本英雄ニコボックス委員長

- ・ 3月14日は、結婚記念日&妻の誕生日です。本日はゲストに長谷川隆さんを迎えています。よろしくお祈りします。 鈴木 淑久さん
- ・ 今月末、誕生日が来ます！また一つ歳が増えますが、健康で末永く、また、

若々しく頑張りたいと思います！

酒井 俊光さん

- ・ 3月16日は家内の誕生日です。

森 恒夫さん

- ・ 浅野さん、本日は卓話有難うございます。

高木 元明さん

- ・ 先日、山田鎮浩さんに大変お世話になりました。また、台北延平RC訪問団に参加いたします。よろしくお祈りいたします。

野崎 洋二さん

- ・ 久しぶりのニコボックスです。

長坂 邦雄さん

- ・ 久しぶりの出席です。春めいてきました。

森 裕之さん

- ・ 例会欠席が続きました。

田中 隆義さん

- ・ 会員の皆様の会社で、弊社営業、サービスが大変お世話になっております。

日頃のお礼を申し上げる様、依頼が毎日来ます。ごひいき、お引き立てありがとうございます。

山本 英雄さん

出席報告

山本英雄出席委員長

会員63名 出席49名 (出席計算人数44名)

出席率 84.5%

3月5日は補填により 96.2%

幹事報告

堀慎治幹事

- ・ 3月19日(木)12:55から13:05まで臨時クラブフォーラムを行います。
- ・ 3月19日(木)13:40からの新旧会長・副会長・幹事懇談会の会場が、ビルトン名古屋4階「梅の間」に変更となります。

台北延平RC訪問メンバー



3月14日(土)から、台北延平RC38周年記念例会への参加のため、30名のメンバーで台湾を訪問いたします。

卓話

淡墨桜長寿の秘密

(有)板尾開発 技術顧問 浅野明浩さん

平成7年4月、当時の根尾村より年間管理委託をされ、「淡墨桜」の調査、保護にご尽力された、岐阜大学名誉教授の林進博士(岐阜県文化財保護審議委員会会長)のご指導を頂き、業務を遂行してきました。

「淡墨桜」の長寿を可能にするには、何らかの条件があるはずで、それを満たせば今後も健全で長寿を保てるはずであると考え、それに沿った保護法

を地道に取り続けました。

当該樹の樹種は長寿木の「エドヒガンザクラ系」であり、樹齢1,500年～1,600年と言われております。

「淡墨桜」は1922年の天然記念物指定当時には数本の支柱で立つことが出来たそうです。ところが、1948年、文部省より派遣された本田博士の診断により、あと3年の



寿命と言われ、岐阜市在住の前田利行翁による、根継ぎという延命手術が行われました。当時、ヤマザクラの若根238本を根継ぎしたとの記録があります。現代では親和性等の問題もあり議論を呼んでいますが、当時根継ぎ成功例を確認しており、一部有効であったと考えてよいと思います。

そんな中で、樹勢衰退の大きな原因として根腐れがあげられます。戦時中は山側に明渠水路があり、漏れ放題になっていた水が主幹北側に滞留し、やがては根腐れを引き起こし、大枝が枯死し、遂には主幹部北面をも腐朽させたと推定できます。現状の主幹生存部は馬蹄形にて北面には開口部がある状態ですが、根本的な対処がされていませんでした。

根継から20年後の1969年(昭和44年)、当該桜にとって大きな転機がやってきました。それは、当時の著名な作家・宇野千代女史により、この桜が見い出されたことです。女史は知人である、初代文化庁長官の今日出海氏にこの桜の窮状を訴えました。それにより、迅速な対応がなされ、その結果、踏圧防止の立ち入り防止柵が設けられ、環境改良策が講じられました。宇野千代氏はまさしく、「淡墨桜」の生命力の回復に向けて重要なきっかけを作られました。地元の人々は「淡墨桜」にとって、まさしく宇野千代女史は命の恩人と言っても過言ではないと言っています。

長期間隔で行う保護作業に、7～8年間隔で支柱を取り換える工事があります。しかしながら、戦前から戦後にかけての不十分な対応の結果、既に本体や大枝の「支持力」は皆無と言ってよい状態になってしまいました。現在の大枝5本は全てが雨樋状になっています。これは前述の、根系の大きな毀損により、樹体自体が大きく損傷し、枝葉が極端に疎の状態となり、夏日照りを受けた事で、大枝の上部や主幹内部が乾燥枯死状態になったからであります。

このような大枝の支柱交換は、全く支持力が無いものに対して行うので、慎重を期せねばなりません。25tクレーンを2両配置し、1両は支持力の無い大枝を吊上げ、もう1両にて36本の支柱の取り付け作業を行います。

また、10年前の秋期には大枝最後の手術を行いました、大きく重い支柱を固定するため、雨樋状の空洞内は不定根が出る可能性があります。そこで、太枝固定の確実さを優先し、ウレタンの充填を行いました。以降の太枝は年々カサの成長を見ることが出来ます。

ある文献に、「不定根は定根と同じ動きをし、かつ空中部は幹化する」との記述があり、「淡墨桜」の主幹空洞内部はまさしくその通りでした。

そんな中、自然に着地した立派な不定根がありました。これを見て他の細い根を地上まで誘導し、定根化させることを思い付きました。根を誘導する容器についても、長野県の田村樹木医に助言を頂きました。

それは、孟宗竹の節をくり抜いて用いるもので、竹であれば時間とともに分解し、分解する頃には不定根は着地しています。

竹の中はモミガラ燐炭及び、水コケを詰め込み、十分な水分を供給するよう工夫しました。そして鉛筆大の太さの活きた根先を入れ込むだけで、成績の良いものは、ひと夏で1.5m伸長し着地し定根となった事例もあります。ただ、竹に詰め込む材料はあくまでも貧栄養の材料でなければなりま

せん。富栄養の材では、根がいきなり毛細根となってしまう伸長しないという林博士のご提案に沿って行ったものです。これを、私たちはジネンジョ栽培になぞらえて、「不定根誘導のジネンジョ工法」と呼んでいます。

例年11月第2週には雪吊り作業を行います。当地は県下でも有数の多雪地帯で、雪吊りをやっていない時期には大人の二の腕位の太い枝が毎冬折れていた程です。現在では樹勢が上向き、枝がしなやかになったことも加わり、1本の細枝も折れることはありません。

長寿の秘密には、桜は代表的な陽樹であり、当該場所が日当たりの良い所であることがあります。ところが近年致命的な現象が現われてきました。西側山林に、人工林(スギ、ヒノキ)が終戦直後の拡大造林施策にて一斉に植林され、満足な管理もなされず、いわゆる放置林状態となっていました。5年前、一気に20軒余の地権者へのアプローチが始まりました。山裾から上方へ40m、幅約300mの買い上げ買収が行われ即強度の間伐や伐採をすることが出来たのです。それにより、現在では午後の4時半でも日照を見ることが出来ます。

二つ目に、ミネラル豊富な地下水が恒常的に流動していることも挙げられます。滞流水と違って、流動する地下水は酸素を供給してくれるため、根腐れを起こすことはないのです。

三つ目は、西側に大きく連なる山並があることです。台風は西を通ると風が強くなりますが、この山並がそれを防いでくれています。長寿で生き残ったのはまさしく地形的な恩恵で、それは無視できません。強風は最大の敵と言えるので、「淡墨桜」はまさに、絶妙な場所に生涯の地を選んだと言っても良い程です。

平成18年9月には「淡墨公園整備基本計画策定検討会」が発足し、林博士が座長に就任し、検討会が本年3月に至るまでの長きに亘り開催されました。この工事は淡墨桜の保護を基本としたものとして勧められ、まさに桜樹にとっては日本一の公園が誕生したと考えています。この3月には5力年に亘る工事が無事完成いたしました。

検討会の結果、主幹上方(西側山裾)に通う農業用水(暗渠ヒューム管)の漏水対策からはじまり、「淡墨桜」を車いすでも周回観覧出来る遊歩道工事の基礎材変更、透水層の設置の成果が上げられました。

「淡墨桜」がこれからも長寿で生き続けるには、多くの人びとが関心を持ってくれることだと考えています。その意味で特筆すべき事に、林博士とパナソニックが開発された、樹体に影響を与えない「夜間照明」の技術があります。この「夜間照明」は、2年前から供用を開始しており、集客効果は抜群であります。

最後に林進博士には、樹木学、土壌学、微生物学に関する諸理論をはじめ、樹木保護増殖及び生育環境整備の技術について、長年に渡りご教示を賜りました。ここに謝意を表したいです。

例会のご案内

■今週の卓話	3月19日(木) テーマ：創立35周年・我が名古屋瑞穂RCの歩み 会員卓話：野崎洋二さん
■次週の行事	3月26日(木) 第1690回例会及びI.D.M 場所：ヒルトン名古屋4階「桜の間」 時間：18:00～20:00
■次々週卓話	4月2日(木) テーマ：カッティングツールについて 会員卓話：岩田吉廣さん